家庭向け人権啓発紙　第７３号（令和7年3月）　　発行：小山市教育委員会

ほほえみ

こんな場面はありませんか？

・「ふつうは、〇〇〇だよね」
・「□□人って、〇〇〇ですよね」
　（ブラジル人だからサッカー上手いんでしょ）
・「血液型は□型か。だから〇〇〇なんだね」
・「女性なのにすごいね」「もう少し女らしくしたら」
・男性看護師を医師と決めつける

話を受けたときどのように感じるでしょうか。「ふつう」に当てはまらない人は、どんな気持ちでこの言葉を聞くのでしょうか？

「はて？」
「モヤモヤ」
「これって、おかしくない？」
「思い込み？」
「決めつけ？」

「人権」の大切さを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの親しい関係において、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまったことはありませんか？
　逆に、身近な人からかけられた言葉に気持ちがモヤモヤした経験はありませんか？
　みなさんは、「**マイクロアグレッション**」を知っていますか？

　マイクロアグレッションとは、マイクロは「小さい」、アグレッションは「攻撃」という意味で、「相手に対する無理解」や「偏見による決めつけ」などから出てしまう言動や態度によって、相手をおとしめたり、傷つけたりしてしまうことです。
　意図的かどうかにかかわらず、その言動の背景には、決めつけや思い込み、特定の集団に対する軽視や偏見が隠れていて、それが暗に表現されたメッセージとして相手に伝わります。
　マイクロアグレッションは露骨な“差別”と違って見えにくく、見過ごされやすいですが、受けた本人にとっての影響は小さくなく、日常的にダメージが蓄積していく場合もあります。

【無自覚に相手を傷つけないために…】

　もし日頃の人間関係の中で、相手や第三者の言動にモヤモヤしたとき、その違和感や不快だと思った事実に対して「気にしすぎかも」と悩む必要はありません。むしろそれは、見過ごされやすい差別意識に気付くことができる感性があるということです。心から湧き出てきた「はて？」を大切にしましょう。
　一方で、相手を傷つけたくないからといって、コミュニケーションを制限しては、相互理解は進みません。　「会話したい」「気持ちを伝えたい」という気持ち自体は、決して悪いことではなく、むしろコミュニケーションなくして、相手を理解することはできません。
　ただ、そのときに「**自分の価値観を押しつけていないか**」「**相手の感情や考えを決めつけていないか**」「**尊厳を傷つける表現になっていないか**」「**属性*にとらわれずに、その人自身と向き合っているか**」といったポイントで、自分の言動を見直すことが大切です。＊属性：国籍、人種、性別、出身地、職業、年齢など、人を分ける際の基準になるもの

人権 Topic　～部落差別（同和問題）～

　部落差別（同和問題）とは、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、特定の地域出身やそこに住んでいることを理由に差別を受けるなど、我が国固有の人権問題です。
　この問題を解決するため国は、同和対策審議会答申（1965 年）により法律を制定し、各種施策を通じ差別解消に取り組んできました。しかし、地域や年齢層などにより程度の差はあるものの、差別意識は依然として存在しており、とりわけインターネットを介した誹謗中傷等の問題が発生しています。平成 28 年（2016）12 月には、部落差別のない社会の実現を目指して、「部落差別解消推進法」が施行されました。
　本市では「市民意識調査」（令和３年）において、以前（平成 27 年）と比べるとこの問題の認知度は高くなりましたが、若い世代では低くなる傾向となっています。今後もすべての人の基本的人権の尊重という視点に立って、部落差別（同和問題）に関する正しい理解を深めていくことが大切です。